

数学は世の中に出て役に立つの？

多くの子供たちの疑問「こんな事勉強して、大人になって何の役に立つの」、これに答えることのできる方は立派です。なぜ答えることに窮するかというと、大人自身が子供の頃に同じ疑問を一度は持ったからであり、その答えを見いだせないまま大人になってしまったからだろうと思います。しかしだからと言って、「そんなのは大人になれば分かる。」で納得するほど子供たちはおろかではありません。

ここ3ヶ月ほど『算数の世界』で「派遣社員の玲子さん」シリーズを続けてきましたが、あの問題は「論理的に考えなければならない事柄は、日常の生活の中にこそある。」というのが隠れたテーマです。紙を安く買ったり、社内報を作成したり、休暇予定を調整したりすることこそが世間に出てから役に立つ力であり、基となっているのは算数（数学）なのです。

日常の買い物、旅行の計画、日程の調整、調理の手順や味付けなど、常日頃は成り行きと勘で済ませているものの中にも、いざ考え出すと深みのある内容のものも少なくありません。

以前にも書いたことがあります。中学までの勉強というのは、その科目を通して「考えること」の重要性を経験するところに一番の目的があるように思います。「なぜそうなるのか」という疑問は、理数科目のみならず社会や英語・国語においても重要であり、理由を理解しようとする姿勢が、私たちにより高度な思考活動をもたらす基礎となっていると思います。

高校以降になると科目ごとの専門性が高くなり、「何を考えるか」が細分化することになりますが、中学生時代は、まさに日常生活を過ごす中で役に立つ「考える力」を鍛錬するのにふさわしい時期（年齢的にも）だと思えます。そう言った意味では、中学までが義務教育というものも納得のいく制度ではないかと思えます。

話が少しそれましたが、「いまやっている勉強は将来必ず役に立つ。」と堂々と答えてあげてよいと思います。そのためには「どうしてそうなるのだろう。」という目で物事を見つめることが大切だよと付け加えることが必要です。

<お知らせ>

年度当初にお知らせ致しましたが、2005年度より当塾も消費税の課税対象業者となりますので、2005年度1月分授業料より、消費税をお預かりすることとなります。よろしくご了承下さい。